

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、長きにわたる歴史の中で培われた伝統と築きあげられた実績の上に、平成 20 年より生徒一人ひとりの進路実現をめざす普通科単位制高校とした。「起て一千の鳳雛よ」の願いのもと、文武両道の精神を重んじ、新しい時代に求められる資質・能力を育成するとともに、個々の生徒の可能性を最大限に伸ばす学びの実践から一人ひとりの第一志望をかなえ夢の実現を果たす学校をめざす。

『鳳高校が育成をめざす生徒像』

- (1) 将来に向かって高い志を抱き、信念を持って果敢に挑戦する生徒
- (2) 義務教育の学習内容を完結し、本校入学後も向学心を持って勉学に取り組む生徒
- (3) 本校の単位制システムを十分理解し、進路実現のための幅広い知識と情報の吸収を意欲的に行う生徒
- (4) 学業のみならず、部活動や学校行事等を通して、自己の成長のために努力を惜しまない生徒

2 中期的目標

◎ 鳳高校は、『第一志望をかなえる鳳』、『進路実現100%をめざす鳳』を合言葉に、以下を本校の中期的目標とする。

- 1 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる。
 - (1) 高い志を抱き、信念を持って果敢に挑戦する姿勢を育む。
 - (2) 普通科単位制の優位性を具現化するために、ガイダンス体制の一層の充実を図る。
※ 生徒の学校満足度「入学して満足」が100%をめざす。(平成 30 年度 76%/平成 29 年度 78%/平成 28 年度 70%)
 - (3) 2020 年大学入試改革をふまえた校内体制の構築と取組みを推進する。
※ 1, 2 年生において学習到達度テスト、外部模試を実施し、学力向上に向けた有効ツールとしてデータ活用できる体制づくりを行う。
- 2 社会を生き抜く力を育成する。
 - (1) 人に心を開き、思いやりをもって接することのできる生徒を育てる。
 - (2) 未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力を身に付ける。
 - (3) 社会のルールや人との約束を守る規律性の大切さを教える。
 - (4) ボランティア活動など社会に貢献する人材の育成。
 - (5) 安全で安心な学校をみんなでつくる。
※ 生徒の「自己管理能力は十分にある」が100%をめざす。(平成 30 年度 72%/平成 29 年度 76%/平成 28 年度 73%)
- 3 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる。
 - (1) 十分な知識を基盤として、課題を探究する姿勢を育てる。
 - (2) 「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。
 - (3) 学校経営推進費事業『フェニックス・プロジェクト』での英語の四技能統合型授業を中心としたアクティブ・ラーニングのさらなる推進と各教科における生徒の主体的、協働的な学びを促進する。
※ 生徒の「授業内容はよく理解できる」が100%をめざす。(平成 30 年度 75%/平成 29 年度 76%/平成 28 年度 70%)
- 4 広報活動を学校経営の重要戦略と位置づける。
 - (1) あらゆるチャンネルを活用して本校教育活動の情報発信を行う。
 - (2) 入試制度の変更をチャンスととらえ、中学生が本校の真の価値を理解して受験するよう、正確な情報の収集と提供を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p>i) 授業理解について 授業理解についての肯定的評価の割合 生徒 75%、保護者 65%、教員 90%</p> <p>○全体として、教職員＞生徒＞保護者の順に肯定的評価の割合が大きく、生徒は“教員が感じているほどは理解していないが、保護者が思っているよりは理解”していることがわかる。</p> <p>○1 年生が「理解度」「集中度」の割合が最も低い。例年はいわゆる中だるみの学年といわれる 2 年生が最も低くなる。</p> <p>ii) 授業での集中と理解（クロス集計から） ○授業に集中しているにも関わらず授業を理解していない生徒がいることを意識しながら授業内容を精査する必要があると考えられる。生徒が主体的に学ぶ授業を意識することによって、生徒の授業への集中力を持続させつつ、理解につながるような深い学びを実践することを検討していかなければならないのではないか。</p> <p>iii) 鳳高校を受験した理由と学校生活（クロス集計から） ○クラブや伝統・校風を理由に入学した生徒はポジティブな傾向にあり、塾・中学校の先生や保護者・家族に薦められて入学した生徒はややネガティブな傾向があることが分かった。つまり、自分の意志で入学した生徒の方が、学校生活に前向きに取り組む傾向がある。</p> <p>○説明会に参加した生徒の方が学校への満足度は高いので、今後も説明会をより一層充実させていく必要がある。</p> <p>iv) その他検討課題 ○自己管理能力の認識をより明確にするために、質問項目を時間に関する質問と、マナーに関する項目に分けたり、スマホ利用を聞いてはどうか。</p>	<p>【生徒の育成】 ○SNS を介してとか、限定された人間関係でのコミュニケーションしかできない人が増えてきている。これからコミュニケーション力がますます必要になる。</p> <p>○リーダーシップのある人も求められてくる。リーダーとしての経験ができる場を作っていくことも大切である。</p> <p>○「第一志望をかなえる」というキャッチフレーズを長年使っているが、「こういう人間を育てたい」という柱・メッセージが必要ではないか。例えば、「前に踏み出す力」をより具体化してはどうか。</p> <p>○目指す学校像にある「起て一千の鳳雛よ」はイメージしにくいのでは、生徒一人ひとりを育てて飛躍させるというメッセージがより明確に出た方がよい。</p> <p>○学習と部活動の両立が課題。休みの日の部活動の時間が長いと感じた。反面、仲間と結束して助け合うメリットもある。</p> <p>【学校運営】 ○「単位制とは何か」ということや他校ではできない単位制のよさをわかりやすく発信していくとよい。</p> <p>○単位制の趣旨に立ち返って考えることが大事である。1 年生の秋にガイダンスを通じて将来を考えていくメリットがある。振り返るとよい環境だったと思う。</p> <p>○生徒にとって、ガイダンスを通じて将来の目標が具体的になるので大切である。また、探究活動、地域連携、高大接続にもつながる。</p> <p>○最近大学の授業もアクティブ・ラーニングが取り入れられ、学生が生き生きしている。「単位制」に大学を先取りするイメージを載せてはどうか。高校教員が大学の授業を知ることでイメージが変わるかもしれない。</p> <p>○広報はコンテンツの質が勝負、「学習指導と進路指導」、「部活動」の 2 つを充実させることが大切である。</p> <p>○卒業生への追跡調査や卒業生から在校生への講演等を実施し、授業・進路指導の振り返りや広報に役立ててはどうか。</p> <p>○施設・設備の老朽化が目立ってきている。教育環境は学校選択にも関わることである。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 前に踏み出す力を育て、生徒の第一志望をかなえる	<p>(1) 生徒が高い志と信念を持って、進路実現に果敢に挑戦するよう導く。</p> <p>(2) 普通科単位制の要であるガイダンスが効果的に機能するよう工夫する。</p> <p>(3) 大学入試改革に向けた校内体制の構築と取組みの推進</p>	<p>(1) 大学、専門学校、就職それぞれに応じた指導を行い、全員の希望を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 強い意思を持って進路の実現を果たすよう指導する。 難関大学にチャレンジする気概を育てる。 センター試験の受験者の増加を図る。 <p>・長期休暇中の講習を充実させる。</p> <p>・単位制発足11年目となることから校内検討会「これからの鳳」を継続開催し、「今ある課題や今後に向けて」について検討し、実践につなげる</p> <p>(2) 生徒が最適な科目選択を行うよう、ガイダンスを効果的なものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に進路の資料・情報を自ら収集し咀嚼する姿勢を育てる。 専門家による説明会、講演会等を通して生徒のなかで進路のイメージを具体化させる。 <p>(3) 「第一希望の進路実現」をめざし、教育産業の活用を導入し、生徒ならびに教員の意識を高めるとともに取組みの推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試改革における多面的・総合的評価への対応 	<p>(1) 生徒の進路の実現100%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> センター試験受験者の増加。(H29/229名) センター試験受験者の平均点が全教科科目で全国平均を上回る。 <p>・より多い講習参加者。</p> <p>・生徒の自学自習時間の向上</p> <p>・1年から3年において国公立、難関私大希望者と合格者などについてのデータの検討と作成</p> <p>・課題に対応したアクションを起こす</p> <p>(2) ガイダンスに係る生徒アンケートの肯定的回答97%以上(H29/96.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員によるガイダンス年2回実施。 全教員による科目選択申請書点検。 専門家等による進路に関する講演会、説明会等を開催する。(H29 講演11回、説明会20回実施) <p>(3) 教育産業の活用に係る生徒、教員のデータ検討会の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の特別活動の把握と積み上げ方法の構築。 	<p>(1) 進路実現100%に係る評価(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路に関して考える機会や情報提供等の肯定的評価(85.7%) センター試験受験者(241名) センター試験受験者の平均点(ほぼ全国平均を上回ったが、一部下回る) 前年並み600名超参加 平日の自学自習時間、全学年:2~3時間-1%/1~2時間±0, 1年2~3時間-3%/1~2時間-2%(微減) 模試等の実施方法等の改善 <p>(2) 効果的なガイダンスに係る評価(O)</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンスに係る生徒アンケートの肯定的回答(97.8%) 全教員ガイダンス年間2回実施 全教員による申請書点検実施 外部講師(12回)、説明会(計6回)他、個別ガイダンス適宜実施 <p>(3) 大学入試改革への取組に係る評価(O)</p> <ul style="list-style-type: none"> データ検討会の実施やe-ポートフォリオのデータ蓄積開始
2. 社会を生き抜く力を育成する	<p>(1) 思いやりをもって人と接する生徒を育てる。</p> <p>(2) 未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力を身に付ける。</p> <p>(3) 社会のルールや約束事を守ることの大切さを教える。</p> <p>(4) ボランティア活動など社会に貢献する人材の育成。</p> <p>(5) 安全で安心な学校をみんなで作る。</p>	<p>(1) 自治会活動、学校行事、部活動を通して人間力の高揚を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図る。 <p>(2) オーストラリア海外研修、スピーチコンテスト等を通して、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎朝実施している「朝の読書」を充実させるとともに、「朝の読書」をテーマとした1年プレゼンテーション大会を継続実施し、思考力、表現力を育成する。 <p>(3) 時間厳守、とくに遅刻数を減らすことに徹底して取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校時の安全指導、とくに自転車指導に取り組む。 <p>(4) ボランティア活動など社会貢献の機会を積極的に提供し、推進する。</p> <p>(5) スクールカウンセラーと教職員の情報交換を緊密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 月一回教育相談委員会を開催し、課題を有する生徒に関する情報共有を図る。 教育相談室を生徒にとってさらに安心できる場所となるよう充実を図る。 薬物乱用防止のための取組みを継続する。 	<p>(1) 校内活性化委員会を中心に、人間力を高めるための工夫を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新1年部活動加入率90%をめざす。(H29/88.5%) <p>(2) オーストラリア国際交流研修の実施と昨年度並みの参加者をめざす。(参加者上限20名/H29・20名)</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチコンテストの観覧者数(府立高校英語教員、地元中学教員、PTA)の増加。(H29 他校教員15名) 1年プレゼンテーション大会の実施 <p>(3) 生活確立週間を年間3回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻登校者数の減少(H29/24%減) ノーチャイムデー、ノーチャイムウィークの実施。 毎日の登下校時に安全指導を実施する。 <p>(4) 社会貢献の機会を増やす。(8回以上)</p> <p>(5) スクールカウンセラーと教職員のケース会議を適宜開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談に関するテーマでの教職員研修を実施する。(生徒「悩みや相談がしやすい」40%) 薬物乱用防止教室を年2回実施する。(H29 2回実施) 	<p>(1) 人間力を高めるための工夫に係る評価(O)</p> <ul style="list-style-type: none"> 台風被害で活動に大きな支障がある中、新1年部活動加入率(89%) <p>(2) 国際交流等による思考力、判断力、表現力の育成に係る評価(O)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流研修参加者19名 スピーチコンテストは体育館被災のため日程・会場等を変更し実施(公開せず) 総合的な探究の時間を見据えてプレゼンのテーマを変更しプロジェクト型学習を実施した <p>(3) 社会のルールなど、規範意識等の向上に係る取組の総合評価(O)</p> <ul style="list-style-type: none"> 携帯マナー等、必要な課題への取組みを適宜実施 遅刻登校者(2606件/昨年3020件) 交通安全活動に対する府警本部・交通安全協会からの表彰を受けた 社会に貢献する人材の育成に係る評価(O) 社会貢献(8回) <p>(5) 安全で安心な学校づくりに係る評価(O)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒「悩みや相談がしやすい」40% 薬物乱用防止教室(年2回実施)

府立鳳高等学校

3. 疑問を持ち、その解決に向けて考え抜く力を育てる	<p>(1)十分な知識を基盤として、課題を探究する姿勢を育てる。</p> <p>(2)「授業アンケート」を分析し、教職員の授業力向上のための材料とする。</p> <p>(3)英語におけるアクティブ・ラーニング推進のための「フェニックス・プロジェクト」の実践を継続する。</p> <p>(4)英語以外の教科におけるアクティブ・ラーニングを推進する。</p>	<p>(1)個々のニーズに応じた多くの選択科目を設定し、探究心、向上心を養う。</p> <p>(2)生徒による授業アンケート(年2回)結果を分析し、授業改善に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科を超えた授業見学を通して授業力の向上を図る。 若手教員の資質向上を図るため校内での取組みを推進する。 <p>・4技能型の能力育成を進めるためのICT活用法を「反転学習」などの手法で探り、利用する。</p> <p>(3)協働学習形態での指導の研究と実践を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4技能における英語力の伸長を図る。 <p>・実践の成果を広く発信し、高校英語教育におけるパイロット的役割を果たす。</p> <p>(4)英語以外の各教科においてICT機器の活用を広げ、効果的に意欲関心を引き出す授業づくりを推進する。</p>	<p>(1)選択科目135科目の開設。</p> <p>(2)H30授業アンケートの結果向上者数の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員相互による校内授業見学週間を設ける。 初担任、新任教職員の情報交換会、および「本校が2校目となる教職員の会」も継続実施する。(H29/2回実施) 音声・画像等を活用したICT機器用教材を作成し、共用教材としてストックするとともに、クラウド上に教材をあげ、反転学習を実現する。 <p>(3)ペアワーク・役割のある小グループ活動・ディベート等のアクティブ型指導方法の研究と実践を継続し、ノウハウを蓄積・共用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間英語テストで検証する。 公開授業での実践発表を通して「フェニックス・プロジェクト」の成果とさらなる発展性を府立高校全体に発信する。 <p>(4)ICT機器の活用教員5割以上(H29/42%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路に必要な科目選択について生徒の肯定的評価92%(○) <p>(2)教員の授業力向上に係る評価(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に興味・関心が持てた(1回目2.99/2回目3.12) 知識・技能が身についた(1回目2.98/2回目3.13) 校内授業見学週間11月に加え2月にも実施(◎) インターミディエート研修等と連動して実施(○) クラウド上のミニディベートやクイズレットを適宜活用 <p>(3)英語におけるアクティブ型指導に係る評価(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> シグソー法、紙芝居プレゼン、ディベートを計画的に実践 G-TEC(1年トリス、リディング、リスニング、ライティング)すべて全国平均以上) 授業視察(3件)、全国英語教育学会や府高英研で実践発表 <p>(4)英語以外のアクティブ型授業・ICT機器活用に係る評価(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器活用教員(36%)
4. 重要戦略と位置づける 広報活動を学校経営の	<p>(1)あらゆるチャンネルを通して本校教育活動の情報発信を行う。</p> <p>(2)中学生が本校の真の価値を理解して受験するよう正確な情報の収集と提供を行う。</p>	<p>(1)今年度の入試結果を分析し、今後の効果的な広報活動につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> HPのきめ細かい更新を行う。 学校協議会の意見・提言を学校運営の改善に生かす。 <p>・地域向け「鳳高新聞」の継続発行</p> <p>(2)各学校説明会などに積極的に参加し、中学生、保護者に丁寧な説明を行う</p>	<p>(1)全教職員で中学校を訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校協議会からの提言である「よい取組みの発信」を学校HPに生かし、きめ細かく更新を行う。(H29鳳ニュース掲載件数/61件) 年3回の発行をめざす <p>(2)参加要請のある学校説明会には可能な限り参加する。</p>	<p>(1)情報発信・広報活動に係る評価(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳳ニュース以外に学年・進路等の充実、ツイッター配信を試行実施(計70件超) 地域向け「鳳高新聞」(3回発行) <p>(2)要請のあった説明会、個別の学校訪問には全て対応(○)(H30/21件)</p>
5. 職場づくり 安心・安全な	<p>(1)時間外労働縮減に向けた取組みを行う。</p>	<p>(1)各教職員の月毎の時間外労働の把握と必要に応じて縮減に向けた指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉退庁日及びノークラブデーの実施徹底を図る。 	<p>(1)月80時間以上の時間外労働教職員数の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ノークラブデー等の完全実施。 	<p>(1)時間外労働の縮減(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 月80時間以上の時間外労働教職員数(1名増) ノークラブデー等の完全実施